

十勝地域のがん患者さん支援の充実に向けたセミナー 2024  
 ～大空と大地の中でがんの在宅療養支援を考える～  
 2024/9/24

## 「がん治療中から終末期を支える 在宅医療の取り組み」

帯広協会病院 腫瘍内科医師  
 杉山 絢子（すぎやま じゅんこ）

帯広協会病院ではこんな風に働いています。

### 腫瘍内科医として

- 術前・術後、転移・再発のがん化学療法
- 各科からのコンサルト（治療・支持療法・緩和ケア）
- 重複がんの治療
- 精神疾患・認知症とがんの合併の治療

### 訪問診療

- がん治療中、終末期の訪問診療・在宅看取り
- 在宅輸血をしながらの血液がんの在宅療養

### がんサポートチームとして

- 院内のがんに関わる困りごとを吸い上げる仕組みづくり
- 多職種連携での緩和ケア・がんのサポーターケアの体制作り（メンタルケア・家族ケア・アピアランスケア・就労支援など）



## 社会福祉法人 北海道社会事業 協会 帯広病院

通称「帯広協会病院」

病床数 300床

診療科 総合診療科、消化器内科、循環器内科、  
 呼吸器内科、腫瘍内科、リウマチ科、小児科、  
 外科、整形外科、泌尿器科、産婦人科、  
 耳鼻咽喉科、眼科、麻酔科、  
 リハビリテーション科、救急科、病理診断科

北海道がん診療連携指定病院



## 帯広協会病院 腫瘍内科での在宅医療に関わる件数

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
看取り総数	39名	73名	91名	118名
病院	26名	39名	35名	66名
在宅	13名	34名	56名	52名

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
訪問診療	57件	302件	652件	744件
緊急往診	13件	40件	62件	43件
訪問看護導入	53件	109件	141件	155件
当院の看護師による退院後訪問	9件	24件	42件	77件
在宅での麻薬注射実施	9件	28件	33件	30件
在宅での高カロリー輸液	10件	26件	39件	43件

# 1. 治療期からの在宅医療の併用

日本の在宅医療の対象者 : 病院への通院が困難になった人

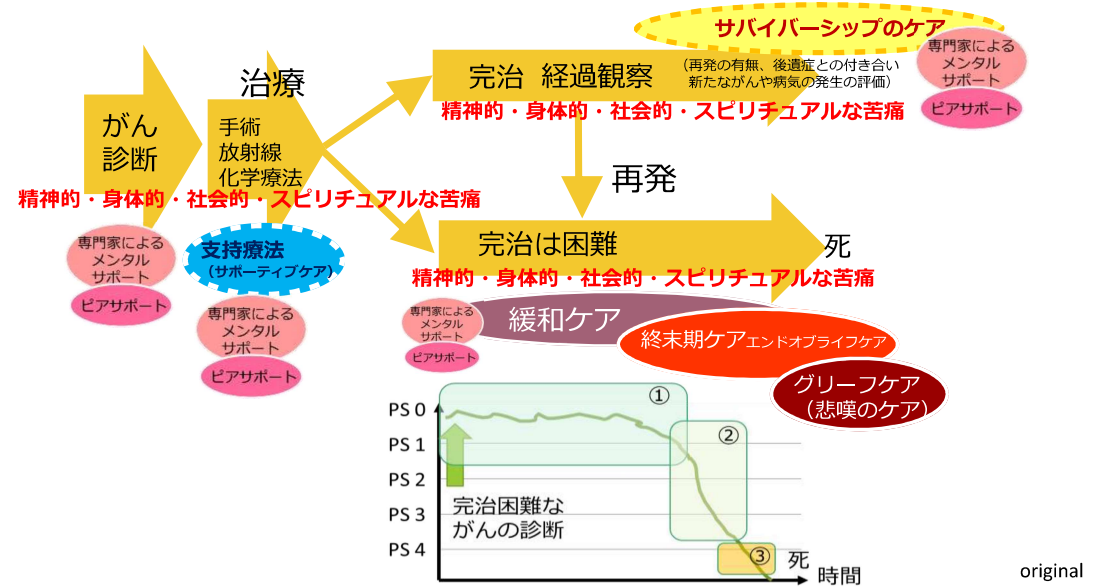
日本の在宅医療の4つの役割  
 ① 日常の療養支援 ② 入退院支援 ③ 急変時の対応 ④ 看取り

海外の例 1) フランスの「在宅入院」、2) オランダ「ビュートゾルフ」

がんと診断された人の場合  
 化学療法の適応がある人 = PS 2 以上  
 PS 2 とは、「歩行可能。自分の身のまわりのことは可能だが、作業不可。日中の50%以上はベッド外で過ごす。」➡一般的に通院困難ではない

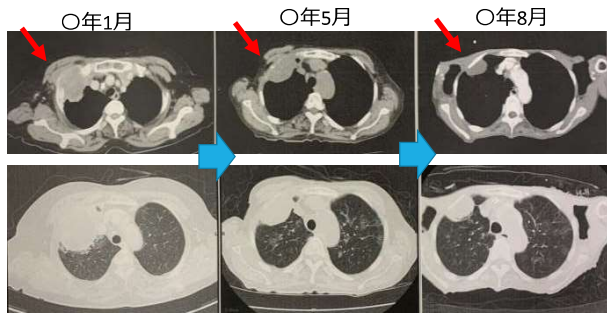
しかし、がんの治療中であっても、在宅医療の適応になる人がいる  
 骨転移などでの体動制限、精神疾患・認知症での通院困難さがある人など

## がんと診断された人の経過と必要なサポートについて



## Mさん、70歳代女性、肺がん、多発骨転移を発症

免疫チェックポイント阻害剤 ペムプロリズマブが著効  
 骨盤の骨転移により歩行不可。認知症あり。  
 遠方（清水町 帯広から30km）に独居。



入院は嫌だよ！  
 ごはんが足りないもん！

- 【利用中のサービス】
- ・ 訪問看護
  - ・ 訪問介護
  - ・ デイサービス
- ※治療導入時は、訪問診療も

治療から約3年 現在は腫瘍がほぼみえないくらいに

## Yさん、60歳代男性、胃がん、腹膜播種を発症

診断から3か月は、無治療を希望。  
 次第に、腹水増量。腹膜播種による腹痛、腹満、胆管狭窄による黄疸が出現。  
 肝不全になりはじめており、予後が1か月程度と予測された。

はじめは、抗がん剤は寝たきりになると思いこんで拒否していたが、話を聞いて、やってみてよかった。まだ、仕事したいし、孫の顔もみたい。

当科に紹介あり、本人と相談の上、化学療法開始。  
 著効し、腹水減少、経口摂取も可能となる。  
 しかし、経口摂取だけの栄養摂取はできず、高カロリー輸液を継続。

その後、1年、仕事しながら治療を継続。  
 最期は、病状悪化のため、入院し、永眠。

- 【サービス】訪問看護・訪問薬剤・訪問診療

## 2. 遠方の患者さんの在宅での緩和ケア



60歳代女性  
 【病状】乳がん、多発骨・肺転移、髄膜播種  
 【家族背景】夫と息子たちは、BSCを受け入れている  
 本人と長女は、積極的治療希望  
 【社会資源】  
 ・訪問看護は50 km先の本別から  
 ・地元では呼吸苦や髄膜播種の緩和ケアの経験は少ない  
 ・保健師・ケアマネ・薬剤師・リハの連携は密  
 ・当院主治医で訪問も対応

60歳代女性  
 【病状】婦人科がん、癌性腹膜炎、小腸皮膚瘻を形成  
 【家族背景】夫は、愛妻家だが介護はできない  
 介護は長女  
 【社会資源】  
 地元の訪問診療医は、併診に協力的。  
 家族とのもとの信頼関係あり  
 訪問看護、地域の医療関係の知人・友人が協力  
 せん妄や高容量のオピオイドへの対応に対しては、  
 当院から対応

## 3. 多職種での連携



1) 夫 軽度認知機能障害・大腸がんの終末期  
 妻 アルツハイマー型認知症 のご夫婦。子供いない。  
 最期はご自宅を希望。



2) 50歳代女性 子宮肉腫。夫死去。姉は同病で在宅看取り。  
 本人と高校生の息子、ともに発達障害。  
 入退院で化学療法を行いながら、本人は入院に慣れていった。  
 息子は養護学校。本人の入院中は、児童相談所の一時保護、退院中は帰宅。  
 最期は入院で、養護学校の先生が看取りに付き添い。

3) 60歳代 男性。肝細胞癌、肝硬変。アルコール使用障害。  
 予後は3か月以内。妻と二人暮らし。  
 自身の行っていた事業がコロナ禍で破綻。  
 数千万単位の借金が、銀行や親せきにある状態。  
 本人は、仕事のこと、借金のこと頭がいっぱいで、妻にも相談できず。  
 妻も、うっすらと借金について分かっており、今後についての不安が強い状態。




## 連携のための情報共有の方法

- ケース毎のオンライン情報共有カンファレンス
  - ・ 開始時
  - ・ 状況変化や問題がおこった時
  - ・ 看取り後
- バイタルリンク
- 電話、LINE、直接 での相談・報告・指示など
- 勉強会・ケース検討会
- イベント開催

◀ 地域の有志の多職種で  
社会的処方MAPを制作しました

▲ 法律家 × 医療・介護・福祉



がんと診断された人も家族も、  
どんな時も、その人らしく過ごせる社会を、  
みんなで作っていきましょう！

ご意見・相談・コメント 歓迎です♪  
杉山 絢子  
FBもやっています。